

## 日本フードシステム学会 2017 年度秋季研究会開催案内

○テーマ：フードシステム再構築に求められる公共性と経済性

－買物困難者問題の実態と課題を探る－

○日時：2017年10月7日（土）：13:00～17:00

○会場：東京大学農学部 1号館 8番講義室（東京メトロ南北線・東大前駅 徒歩3分）

○趣旨：わが国は高齢者が4人に1人を超えて「超高齢社会」となる中、「買物困難者」問題がクローズアップされている。モータリゼーションの進展により郊外部への大型量販店の出店に拍車がかかり中心商店街が空洞化しているが、一方で公共交通サービスの衰退が進んだために移動手段を確保できない高齢者等が増えた。その人々の食材調達における困難な状況が看過できなくなっている。このような「買物困難者」問題は、欧米でも「*Food Deserts Issue*」と称されており、単に買物の利便性が低下することにとどまらず、高齢者等を中心とした健康への悪影響の広がりや、生活環境面での格差の拡大といった社会問題につながっていくことが懸念されている。人口動態や都市構造の将来を予想すると、これらの諸問題が今後一層深刻になることは間違いない。

「買物困難者」への積極的な取り組みが求められている。これらへの取り組みは公共性が高く社会的に評価されているものの、しかしながら経済性と事業継続性の面に困難を抱えている。英国ではこの問題を克服しようと市民ストアが地域コミュニティの利益を優先した取組みを進めている。そしてこれらの活動を支援する団体が存在し多くの役割を果たすことで、公共性と経済性を具備した継続性のある仕組みが構築されている。行政単独も民間事業者も単独ではこの問題を解決できないことが明らかになりつつあり、その成功の鍵は「地域住民との連携化」にあると言える。

わが国においても「買物困難者」問題に挑戦する事業者が増えてきている。本研究会では、公共性、経済性、継続性の面で成果をあげている事業者の方々にお集まりいただき、現場の実態や課題についての報告と相互の討論を通じて、「買物困難者」問題を解決する視角から新たなフードシステムのあり方を検討したい。

○プログラム（敬称略）：

座長：菊池宏之（東洋大学）

### 1. 報告

（1）「買物困難者対応に不可欠な公共性と経済性」（座長解題）

菊池宏之（東洋大学）

（2）「あいきょうの買物困難者対応の実態と課題」

安達享司（（有）安達商事（あいきょう））

（3）「コープさっぽろの買物困難者対応の実態と課題」

前野清光（生活協同組合コープさっぽろ）

（4）「とくし丸の買物困難者対応の実態と課題」

住友達也（（株）とくし丸）

（5）「全日食チェーンの買物困難者対応の実態と課題」

平野実・遠藤和則（全日本食品（株））

### 2. 総合討論

○参加費：学会員及び学生は無料／非会員で学生以外方は1,000円

○本件問い合わせ先：日本フードシステム学会事務局

日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科内

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL 0466-84-3402 / FAX 0466-84-3429

E-mail: [office\\_fsraj@ml.affrc.go.jp](mailto:office_fsraj@ml.affrc.go.jp)